

繁殖戦略

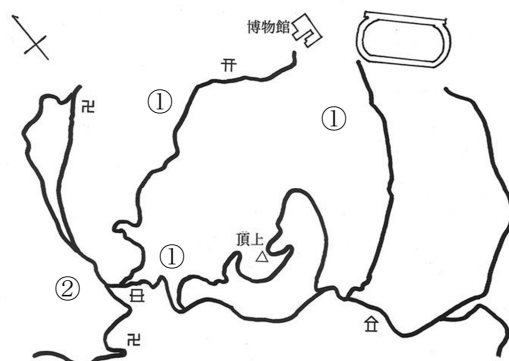
1. キビタキのトレーニング（地図中①地点）

4月に入ると南からの渡り鳥が打吹山にもやってきます。その中で、姿、声ともに目立つのがキビタキです。雄のさえずりは、ホッピーロ ピーロ ピーロ ピーロと何節も繰り返す美声で、鳴く位置は思ったより近い場合が多いようです。雄は胸の卵黄色が特徴的ですが、雌はヒタキ類共通の緑の中で目立たない地味な色彩で目に留まることはまずありません。雄は樹冠より下の枝をさえずりながら移動し、ナワバリを宣言します。しかし、渡ってきた直後は体力がないのか、全く声も出しません。



キビタキの雄

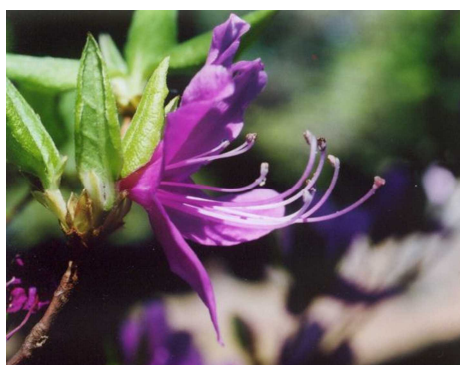
遅れてくる雌を招くためにはナワバリが必要であり、複数の雌を得るためには広さが必要です。そこで長いさえずりが必要な条件になります。最初はホッピーロですが、日々フレーズが増えていきます。毎日観察を続けると同じ場所の個体が上手になり、子孫を残すために努力している様子がわかります。しかし、子育てには雄は関与しないのです。



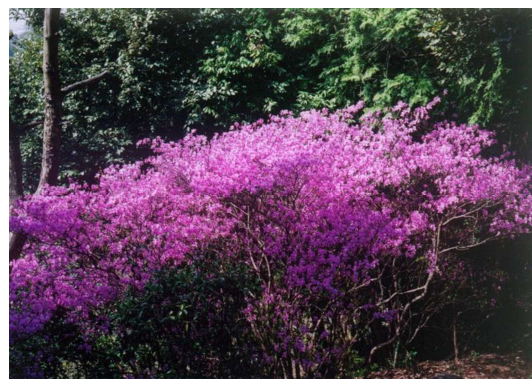
2. ツツジの花から（地図中②地点）

ソメイヨシノの開花が終わるとツツジの開花が始まります。コバノミツバツツジ（倉吉ではオドロとよぶ）が最初です。細根の低木で高木との競争に弱く、岩場や乾燥地など土壤条件が悪く、競争相手の少ないところに生育します。打吹山では乾燥している南面に小さい株が点々と開花します。長谷の八十八ヶ所にある、競争相手の植物が無い株は写真のように大きくなり、毎年最も早く4月10日頃には開花します。

花は横向きに開花し、10本のおしべの葯（やく）の位置より外側水平の位置にめしべの柱頭があります。そのままでは花粉がめしべにつかない位置関係は、虫



コバノミツバツツジの花



長谷の八十八ヶ所のコバノミツバツツジ

媒花であることを示しています。ハナバチ（クマバチなど）やチョウが訪れているのを見ますが、花筒の奥上に蜜を分泌し、潜り込んだ昆虫が体に花粉を付け、他の花を訪れた時に先に出ているめしべに受粉させるしくみです。

葯と柱頭の位置関係には植物の生活様式が現れています。いろいろな花の形態の観察も繁殖方法などに関連づけると面白いものです。